

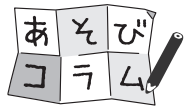
## こどもの森の利用案内



- ★ こどもの森は、時間中いつ来ていつ帰ってもOK。お金はかかりません。
- ★ こどもの森にある道具は自由に使えます。使い終わったら片づけてね。
- ★ おやつやお弁当を食べることもできます。ごみは持って帰ってね。
- ★ 汚れてもいい服や靴で来てね。着替えもあるといいよ。
- ★ なくなったら困る大事なものは、おうちにおいてくるか身に付けて遊んでね。

## 大人のみなさんへ

こどもの森から保護者のみなさんへのお便りです



### 子どもの自発性を伸ばすには……

いつも木材や布、ござなどを使って基地づくりをする小学生の兄弟がいる。プレーリーダーが関わらなくても、アイデアも工夫も尽きない。場所、外観、内装を、そのときどきで変えていく。よくこんなに思いつくな〜、と感心してしまうほど。これだけ次々にアイデアが出てきて、自分たちでどんどん遊ぶのは……いったい何故だろう？

#### その秘訣は…風呂にあり

あるとき、兄弟のお父さんが話してくれた。「こどもの森で過ごした日は、子どもと風呂でその日あったことを話すんです。こんな基地が作りたいって子どもが言えば、じゃあこうするのはどうかな、こんな道具が使えるかも？とか一緒に話しています。毎回、みんなで次に作るものをイメージしているうちに、子どもたちだけで基地を作り続けるようになりましたね」

テレビでもおなじみの澤口俊之先生（認知神経科学）の『幼児教育と脳』（文春新書）の中に、「未来志向性」という言葉が出てくる。目標や目的をもって進んでいく未来に対する積極的な姿勢のことだそう。「未来志向性があればこそ、自発性はより確固たるものになり、体系だった努力も自発的に行うようになるのだ。」（同書より）

「子どもの興味を持ったことについて話す」というお父さんの関わりが、子どもを未来志向なマインドにし、基地づくりへの飽くなき挑戦へとつながっているのかもしれない。

#### 話して膨らむ「もっともっと！」

遊ぶ子どもたちの中に湧き上がる、言葉にならない「これが楽しい！」「もっともっと！」という情熱。友達や家族、プレーリーダーと話すなかで、それがどんどん具体的に、じゃあこうしよう、ああしようという形になっていく様子は、遊び場でもよく目にする。また、ゲーム以外にやりたい遊びがなかったり、少しでも難しそうだと「いいや」「やりたくない」としり込みする子たちにも、その子が何に「楽しい」と感じるかな？をプレーリーダーと一緒に探りながら、やりたいことの追求に付き合いたいと思っている。

週末の30分……お風呂でもご飯の時間でも、その日面白かったことをわいわい話す。みなさんのご家庭でもぜひ、やってみては？

子どもの自発性がどんどん育つ、かもしれないですよ！



プレーリーダーより

五寸クギを投げる!?



“キケン”な遊びをこどもりが続ける理由

五寸クギ（約15センチの太い釘）を地面に勢いよく投げて刺し、ほかの釘を弾き飛ばす勝負遊び「クギさし」。使うのはもちろんクギだけ。こどもの森がこのクギさしをいつでもできるようにしているのは、それが究極にシンプルだけど奥深い遊びだからです。

今の子どもたちは、お金で強いアイテムを買う遊びや、パッチャルな世界での勝負には親しんでいます。スポーツ以外で生身の誰かと戦う経験はあまりありません。それも力の強さや体格といった、自分自身ではどうしようもない条件に左右されない、クギ一本を「投げる」技術を磨くことでしか強くなれない遊び。あくまで遊びではありますが、子どもたちは本気の闘志を燃やして練習し、勝負しています。勝っても敗者を気遣うこと、負けても気持ちを立て直すことを経験のなかで学んでいます。

もちろん、五寸クギは扱い方によっては自分や他人を傷つける凶器にもなります。危ないからこそその「作法」を身につけながら、こういう遊びを続けていってほしい。そのために、「絶対にしてはいけないこと」も伝えながら、プレーリーダーも知恵をしぼって、一番いいやり方を考えつけています。

今回、これまでOKとしていた「マイクギ」はなしとするルールに変更しました。より条件を同じくして、子どもたちに腕を競ってもらいたいと思います。プレーリーダーからも丁寧に子どもたちに話していきますが、おうちの方にもご理解いただき、見守ってもらえたらうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

### こどもの森のクギさし新4か条

- クギは危ないものです。絶対に振り回したり、人に向けてたり、持ったまま歩き回ったりしないこと。
- クギを地面に投げるときは、まわりの人が離れたか必ず確認する。
- 使うのは、こどもの森にある貸しクギだけ。（大会優勝者のみ、賞品のスクリークギを使えます）
- クギはプレーリーダーから借りて、返す。持ったままほかの遊びをしない。